



Ⅱ．平成19年度 中間決算状況



～ 紙産業が集積する四国中央地区 ～

平成19年度中間決算の特色

収益力は着実に向上

コア業務純益は6期連続で増加し、187億円と中間期過去最高を更新

貸出金残高 3兆1,222億円、年間増加率+2.3%

～H9/3期～H19/3期に10年連続で残高増加 H20/3期には11年連続増加を目指す～

預金等残高 4兆2,300億円、年間増加率+2.8%

～H9/3期～H19/3期に10年連続で残高増加 H20/3期には11年連続増加を目指す～

預り資産残高3,885億円、年間増加率+23.4%

信用コストが54億円と半減 ～前年中間期比△58億円～

不良債権比率が2.99%に低下 ～19年3月期比△0.30ポイント～

連結自己資本比率12.30% 有価証券評価益2,094億円と高い健全性

創業130周年を迎え、平成20年3月期に記念配当1円を予定

～年間配当8円へ～

損益状況



伊予銀行



コア業務純益は中間期過去最高益を更新 経常利益大幅増加

- コア業務純益 … **6期連続で増加**（前年中間期比+11億円）し、**中間期としては過去最高の187億円に**
- 経常利益 … **信用コストが半減**したこと等により、前年中間期比39億円増加し、**139億円に**
- 中間純利益 … 引当金新設により特別損益が減少するも、経常利益増加により、**81億円に**

平成19年度中間決算(単体)

(単位:百万円)

	18/9	19/9	前年中間期比	増減率
業務粗利益	39,868	41,321	+ 1,453	+ 3.6%
資金利益	36,114	37,282	+ 1,168	
役務取引等利益	3,422	3,771	+ 349	
その他業務利益 (国債等債券関係損益)	331	268	△ 63	
(国債等債券関係損益)	-	-	(+0)	
コア業務粗利益	39,868	41,321	+ 1,453	+ 3.6%
経費(△)	22,324	22,631	+ 307	+ 1.4%
人件費	12,003	12,076	+ 73	
物件費	8,874	9,087	+ 213	
税金	1,445	1,467	+ 22	
①一般貸倒引当金繰入額(△)	△ 3,803	1,697	+ 5,500	
業務純益	21,347	16,993	△ 4,354	△ 20.4%
コア業務純益(注)	17,543	18,690	+ 1,147	+ 6.5%
臨時損益	△ 11,297	△ 3,062	+ 8,235	
②不良債権処理額(△)	15,036	3,718	△ 11,318	
株式等関係損益	3,228	23	△ 3,205	
その他の臨時損益	509	632	+ 123	
経常利益	10,049	13,930	+ 3,881	+ 38.6%
特別損益	781	△ 1,259	△ 2,040	
うち役員退職慰労引当金繰入(△)	-	782	+ 782	
うち睡眠預金引当金繰入(△)	-	708	+ 708	
税引前中間純利益	10,830	12,671	+ 1,841	
中間純利益	6,760	8,050	+ 1,290	+ 19.1%
経常収益	51,018	53,748	+ 2,730	+ 5.4%

(注)コア業務純益…債券関係損益を除く 一般貸倒引当金繰入前「業務純益」

主な増減要因等(前年中間期比)

業務粗利益 … 前年中間期比+1,453百万円

- 資金利益 … 事業性・個人向けともに貸出金が順調に増加
- 役務取引等利益 … 投資信託販売をはじめとした預り資産業務の強化により増加

経費 … 前年中間期比+307百万円

- ◇ ホストコンピュータ更新、ICカード対応に伴うATM関連投資、減価償却費増加等の要因により増加

信用コスト(①+②)…5,415百万円(前年中間期比△5,818百万円)

①一般貸倒引当金繰入額(前年中間期比+5,500百万円)

- ◇ 17億円の繰入れ

②不良債権処理額(前年中間期比△11,318百万円)

- ◇ 前年度に個別引当を予防的に実施済み
- ◇ 今年度は不良債権の新規発生が減少

株式関係損益 … 前年中間期比△3,205百万円

- ◇ 前年度の反動

特別損益 … 前年中間期比△2,040百万円

- ◇ 「役員退職慰労引当金」、「睡眠預金引当金」を新設

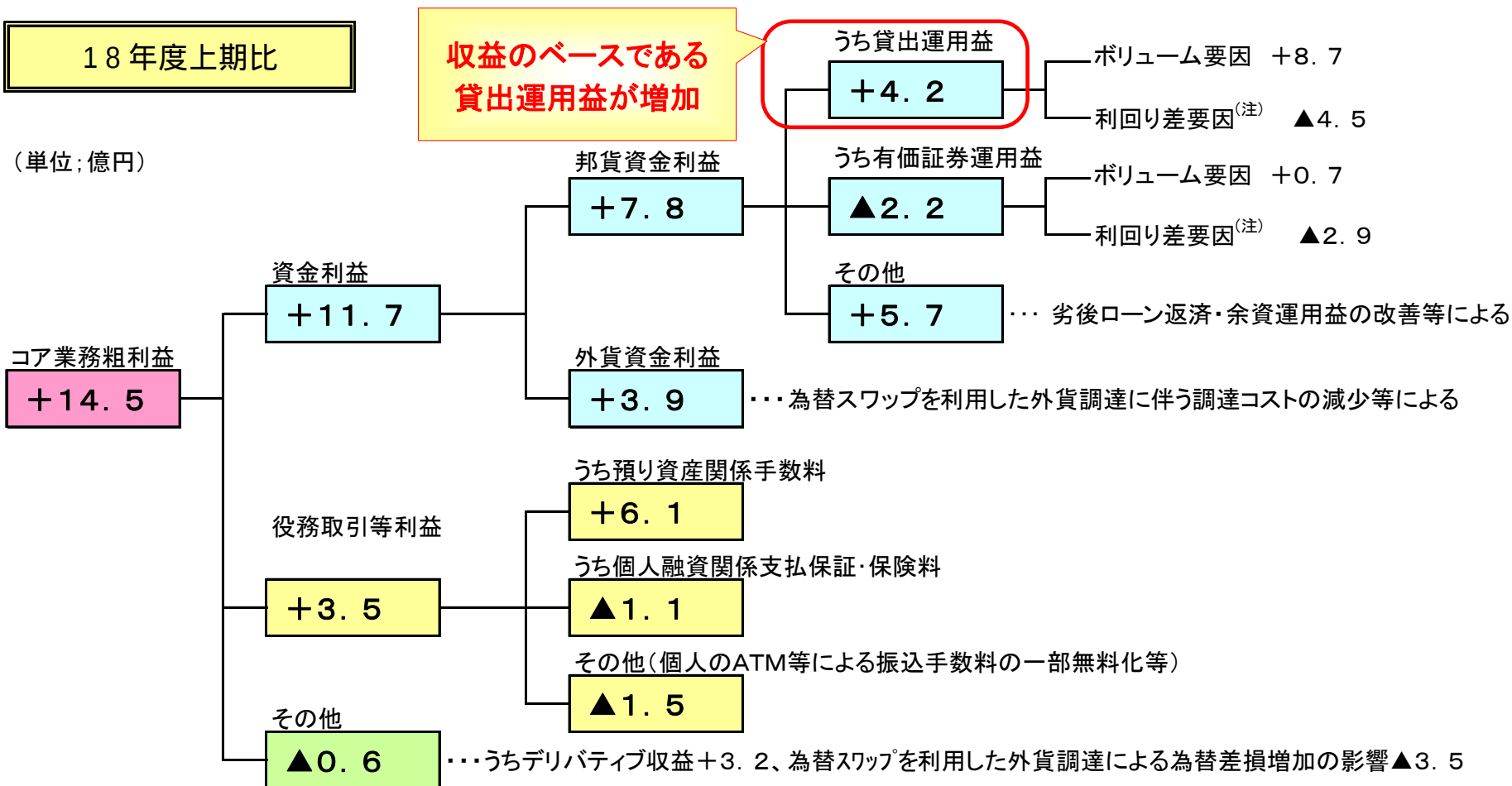
19年度上期コア業務粗利益増減要因

- ✧ 邦貨資金利益 …… 固定債投資の多い有価証券は資金調達利回り上昇を吸収できず減益となったものの、**貸出運用益増加等でカバーし大幅増益を維持**
- ✧ 役務取引等利益 …… 投資信託を中心とした**預り資産販売への取組みにより増益**

18年度上期比

収益のベースである
貸出運用益が増加

(単位: 億円)



(注) 利回り差は預金等利回りとの差を使用している。

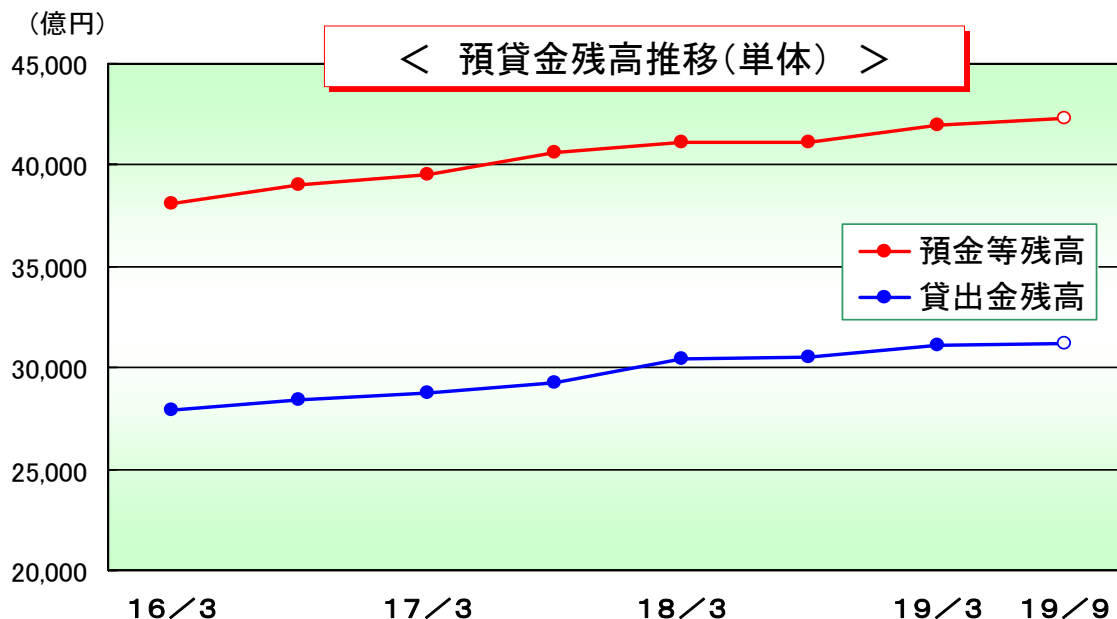
預貸金の状況

- ★ 預金等残高 … 創業130周年記念預金の発売等により、個人預金を中心に順調に増加
- ★ 貸出金残高 … 取引先の拡大等により、事業性貸出金・個人融資ともに順調に増加

預貸金残高推移(単体)

(単位: 億円)

	16/3	17/3	18/3	18/9	19/3	19/9	前年同月末比	増加率
預金等残高	38,066	39,545	41,154	41,141	41,984	42,300	+ 1,159	+ 2.8%
うち個人預金	25,980	26,532	26,668	26,852	27,581	28,191	+ 1,339	+ 5.0%
貸出金残高	27,896	28,782	30,421	30,525	31,078	31,222	+ 697	+ 2.3%
うち個人融資	6,937	7,300	7,771	7,999	8,130	8,213	+ 214	+ 2.7%



安定成長を持続

◆ 9/3期～19/3期 ◆
年度ベースで預貸金ともに
10年連続で期末残高増加中

20/3期には11年連続
残高増加を目指す

開示不良債権の状況



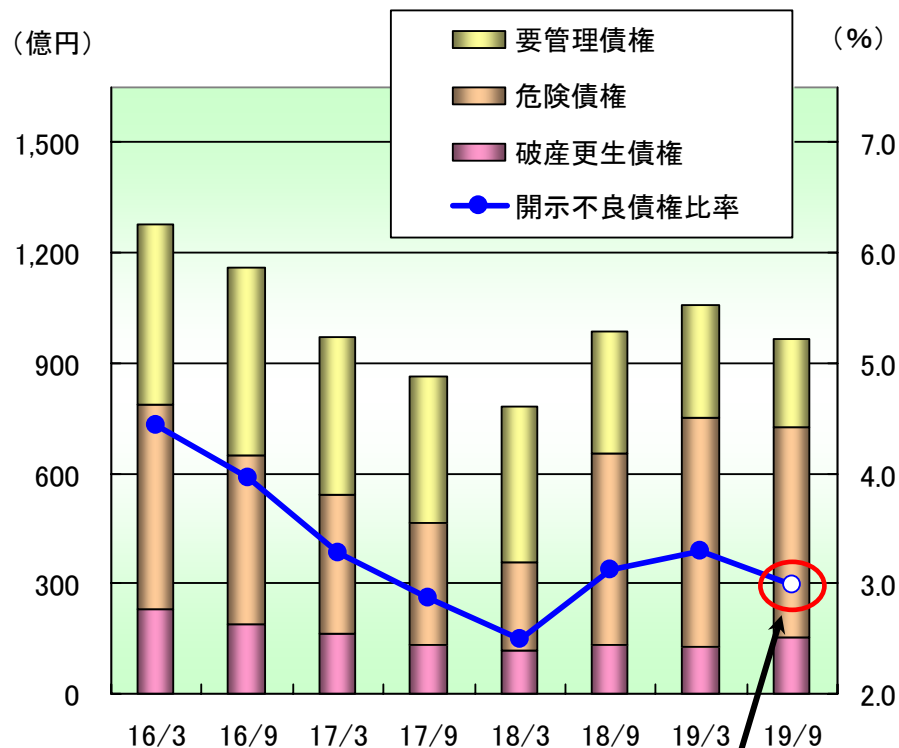
開示不良債権比率 … 危険債権・要管理債権が減少し、**2.99%に低下**

○ 2006年度中計目標の「2%以下」へ向けて「企業再生支援」への取組みを強化

＜金融再生法開示基準による不良債権＞ (単位: 億円)

	18/9	19/3	19/9	19/3比	18/9比
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	131	128	155	+ 27	+ 24
危険債権	522	621	568	△ 53	+ 46
要管理債権	332	308	244	△ 64	△ 88
開示不良債権合計(A)	987	1,058	968	△ 90	△ 19
正常債権	30,575	31,067	31,431	+ 364	+ 856
合 計	31,563	32,126	32,399	+ 273	+ 836
開示不良債権比率	3.12%	3.29%	2.99%	△ 0.30%	△ 0.13%
保全額(B)	806	856	806	△ 50	-
貸倒引当金	325	328	294	△ 34	△ 30
担保保証等	480	527	511	△ 15	+ 30
保全率(B)/(A)	81.65%	80.89%	83.22%	+2.33%	+1.57%

＜開示債権額・比率推移＞



開示不良債権比率 2.99%

有価証券評価益・自己資本比率の状況



健全性指標は高水準を維持

- 有価証券評価益は株価下落により **2,094億円** となるも **高水準を維持**
- 連結自己資本比率は **12.30%** , 連結Tier1比率は **8.28%** に上昇
- R&Iによる外部格付 **「AA-」(安定的)**

